キャラクター名
行方千歳（ゆきかた　ちとせ）

プレイヤー名

シンドローム	エグザイル ハヌマーン	ワークス	レネゲイドビーイングA	カヴァー	UGN本部エージェント
オプショナル	エンジェルハィロゥ	年齢	外見年齢26（実年齢11）	性別	男
覚醒	忘却	衝動	自傷	初期侵食率	38 %
出自	偽りの家庭	経験	煩悶	邂逅	ビジネス

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	3	1	1			5
感覚	2	0	0			2
精神	1	0	0			1
社会	2	0	0			2

HP	31
行動値	5
(非装備時)	5
戦闘移動	10
全力移動	20

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	3		射撃	1		ＲＣ			交渉		
回避	1		知覚			意志	1		調達		
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	2	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
ハルバード（元データ：光の剣）	白兵	5r+3	3	5		マイナー①⑤使用
100%ハルバード（元データ：光の剣）	白兵	5r+3	3	6		マイナー①⑤使用
②+③+⑥　光の瞬閃	白兵	9r+4		7		マイナー①⑤使用、全力移動
②+③+⑥(100%)　黎明の地平線	白兵	13r+5		9		マイナー①⑤使用、全力移動

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
思い出の一品	
コネ：UGN幹部	
コネ：要人への貸し	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
シナリオ・固定：狡噛達也	P　同情	N　恐怖		
Dロイス：転生体	P	N		
固定：峰崎鷹司	P　信頼	N　嫌悪		
PC間：夏目　海斗	P　信頼	N　恐怖		
北野武	P 連帯感	N 劣等感		
白銀　光	P　同情	N　憐憫		
夕凪 和	P 好奇心	N 疎外感		

最大財産P:　4	残り財産P：　0

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
ヒューマンズネイバー	1	-	常時	至近	自身	自動	RB	
効果：衝動判定ダイス+Lv個								
①オリジン：ヒューマン	1	2	マイナー	至近	自身	自動	RB	
効果：ｴﾌｪｸﾄを使用する判定の達成値+Lv								
②コンセントレイト：ハヌマーン	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果：C値-Lv								
③一閃	1	2	メジャー	武器	-	対決	-	
効果：全力移動後に<白兵>攻撃								
④光の剣	1	2	セットアップ	至近	自身	自動	-	
効果：<白兵>武器作成								
⑤シャインブレード	2	2	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果：ｼｰﾝ中装備or所持武器の攻撃力+Lv								
⑥オールレンジ	4	2	メジャー	武器	-	対決	-	
効果：ダイス+Lv個								
⑦かまいたち	1	2	メジャー	視界	-	対決	-	
効果：射程を視界に、攻撃-5								
⑧妖精の手	1	4+4	オート	視界	単体	自動	100%	
効果：対象のダイス目のひとつを10にする								
真昼の星	★	-	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果：色んな人を遠くから観察する								
異能の指先	★	3	メジャー	至近	単体	自動	-	
効果：相手の記憶を読み取る								
効果：								
効果：								

使用：基本１・２、上級

気付いたのはいつだったのだろう。
「行方千歳」はどうやら、一度死んだようだった。しかし、自我を得たときには自分はレネゲイドビーイングとなっていた。
「行方千歳」の記憶と身体をを引き継いで。
違うのは操れるようになったシンドロームと、髪の色、そして「自分がレネゲイドビーイング」という自覚だけ。
「行方千歳」でありながら明確に別人であるという意識がある。そんな自分は、やはり「行方千歳」とは全くの別物なのだ。
狡噛達也の、友人である彼とは違う。

UGN本部エージェントであるレネゲイドビーイング。外見は優男風の男性。
10数年前の任務(「凄惨な夜」とは別)で死亡した際に、身体の主である行方千歳の記憶を引き継いで転生した。
千歳は元々茶髪だったが、レネゲイドビーイングとなったときに白混じりになる。（家族にはおしゃれの一環とごまかしている）
本人の記憶がありながら、自分はレネゲイドビーイングであるという自意識の狭間で葛藤しているが、
そのような中で狡噛達也は親しくしてくれた大事な友人のひとりである。

「自分の存在は一体何者なのか」「この友情も単に記憶によるものでは」と、つまり記憶＝記録と感情のギャップがあることによって
たびたび煩悶することを除けば、本人の元の性格通り穏やかな青年。
だが、レネゲイドビーイングとしては人間をいまいち理解しきれていないところもあり、
狡噛達也が恋人の亡骸を抱えてなぜ泣いていたのか、彼はすべてを理解していない。
友人である狡噛本人と、彼の感情を理解するために彼は十年間探し続けている。

一人称：僕／二人称：キミ／三人称：キミたち